



12 月。学園の小さな子どもたちは、暗闇の中、小さな手にそれぞれの光を携えて歩く「りんごろうそく」を体験。ひとつひとつ、大切なものを包むように持ち寄った小さな光が、やがて闇の中に大きなひとつの螺旋をつくりあげるのを眺めました。

* 11/29 開催「親子でむかえるアドヴェントのつどい」*

階上からゴングの音色が鳴り響き、その音がだんだんと近づいてきます。
隅田先生が語ります。

美しい心で光をむかえよ
ベツレヘムの星は明るく輝く
お生まれになった幼子は
馬小屋の干し草の上で
暗闇の中で
静かにまどろむ

ヨハナ・ルス

「親子でむかえるアドヴェントのつどい 2015」朝の集いが始まりました。
保護者のみなさんと教職員全員で、来場して下さる方を温かくお迎えしようという空気が整い、ライアーの音色と共に集いが幕を開けました。

今年は「この時期の美しく設えた学園を外の方にもご覧いただき、一人でも多くの方にこの学園の良さを知っていただきたい」という目的と共に、原点に帰って、私たち自身の祝祭としての第一アドヴェントを大切に、みんなで温かい気持ちで迎えようということを目指しました。
その中で新たな試みが大きく 3 つありました。

- ・ろうそくの森
- ・人形劇
- ・ボランティアの子どもたちの参加

ろうそくの森は開校二年目、三年目の「アドヴェントの集い」に行っていたものをもとに、教員の熱い思いと保護者のみなさんの工夫と心意気で復活。教員のライアーの調べの中、静かで厳かな催しとなりました。
元気よく入ってきたお子さんが、みるみる静かになって「ろうそく引き」に集中していく様子は、立ち会った教員たちもみな感動したようでした。



落ち葉を敷き詰めた「ろうそくの森」



人形劇は今回初めての試み。この集いをきっかけに結成したグループは何度となく話し合い、練習を重ねてこの日を迎えました。初演の「かさじぞう」はほとんどが人形劇未経験のメンバーとは思えない素晴らしい仕上がりで、グループの今後の活躍も期待されるものとなりました。



人形劇「かさじぞう」

また学園公開グループの熱い願いで、7.8.9 年生にボランティア参加を呼びかけ、当日は 12 名の生徒が駆けつけてくれました。

小さな子に目線を合わせ、笑顔で優しく話しかけながら手を動かす子、教室の色について聞かれると学年ごとによっていくことを丁寧に説明する子、普段は元気いっぱいやんちゃなのに、窓辺飾りを手に持ち、カフェのそばで「こんな飾りを作りませんか？二階でやってます」と柔らかい優しい声でアナウンスする子。それぞれの生徒の姿自体が可愛くて、輝いていて、大人たちは思わず目を細めてしまいました。

教室の色の説明を受けたお客さんは「生徒さんの説明を聞いて、高学年の教室を見に来ました！」と十日市場校舎にもいらしてくださいました。

また、「どうしたらこんなお子さんに育つのですか？」という質問をして下さった方もいらしたそうです。

やはり、私たちこの学園の宝は子どもたちの生き生きとした成長です。そのことを再確認したできごととなりました。

保護者のみなさんと教職員が学園のために一生懸命に働く姿を学園の子どもたちはしっかりと見て、感じています。この集いの日を温かいものにするに丁寧に力を注いで下さった保護者のみなさんに心から感謝したいと思います。

また、道路での道案内、駅での案内に立って下さったみなさん、寒い中本当にありがとうございました。おかげでたくさんの方が迷わず学園に辿り着いたと思います。そしてこの日に大人が安心して力を注ぐことが出来たのは大切な学園の子どもたちを温かく見守って下さっている保育担当の保護者の皆さんがいて下さってこそです。ありがとうございました。

最後に、いつも学園をサポートしてくださっている『星の金貨』さん。今回も入口の素敵なショップは学園の魅力的な顔としてこの集いを盛り立てて下さいました。

一人ひとりの力を生かしながら、その力が結集して行われた今回の集い。

この日、私たちの心にもこれからやってくる光をむかえるアドヴェントの幕開けとなりました。

(手仕事専科教員 柳本瑞枝)

* 農業実習 in 阿蘇 *

9年生 男子7名・女子5名 は11月2日(月)から13日(金)の11泊12日で、熊本のバイオダイナミック農場:「ぼっこわば耕文舎」に農業実習に行ってきました。天候にも恵まれ実りの多い実習となりました。農作業のみならず、仲間との濃密な時間を十二分に楽しんできた様子を、担任:横山義宏の日記と生徒たちの感想を織り交ぜてお伝えしたいと思います。

<11月2日(月) 一日目>

10時羽田発の飛行機に乗るために交通機関の遅延などを考慮し8時半に集合。わたしが8時についてみるとすでに5名は到着。8時半には全員無事集合、雨の羽田を出発。1時間50分の空の旅を終え熊本空港に降り立つと雨雲が通り過ぎ青空が広がっていた。雄大な山々の姿もはっきりと見える。嬉しい旅の始まり。

<11月3日(火) 二日目>

実習初日。9時から作業、まずは収穫した里芋を出荷できるようにする根を取り、出荷できるものとそうでないものを仕分ける作業。全員暖かい日差しの下で作業を行った。店頭で並んでいる里芋と今手にしている里芋はなんと違うことか、形や大きさが均一なものをいつも目にしている。商品にならないふぞろいの里芋に心が痛む。その後は畑で里芋の収穫、男子2人は収穫物を取りに行くとき、トラクターの後ろに乗せてもらい大喜び。2時間があったという間に過ぎた。



阿蘇の風景、農作業、クラスメイトとの生活を満喫して帰ってきました。何よりも阿蘇の大自然に感動し、トラクターの荷台に乗り、遠くの山を眺めながら風を感じたのはとても気持ち良かったです。

池部百合子

<11月6日(金) 五日目>

今日の作業はぼっこさんで学んだ方(こうたさんという)の田んぼの稲刈り。稲刈り?一昨日みたように現代はコンバインで収穫するのではないのか?と置いていたところ、作業前にこうたさんが「普通ならコンバインで収穫ができるのだけれど、いのししに荒らされて機械ではできないんです。初めてのことでどうしたらよいかわかりませんでした。ぼっこさんに相談したら皆さんのお力を借りられるとのこと、ありがとうございます。」と。

わたしたちにとって手作業での稲刈りは貴重な体験。作業をさせていただくことになる。田んぼにいつびっくり、一枚の田んぼ一面まっすぐ立っている稲がありません。

倒れた稲は緑の色を失い茶色に変色している。半年手をかけた稲がたった3日間で荒れてしまった。いのししは稲を食べるわけでもなく走り回った様子。「なんでこんなことを」とこうたさん。この刈った稲は販売できず自家用にするとのこと。気温も上がり汗を流し皆一生懸命鎌をもち、稲を刈る。

途中で別の田んぼの案内をしてくれた。「ここに育てているのは黒米、田んぼは普通こういう状態(猪に荒らされていない)なのでですよ。このお米は古代米とも言われ昔の人が食べていたお米です。このお米が2、3粒種として地に落ちるとたくさんの実りとなるのです。そして実ったお米を食べて力がでるのです。昔の人はそのようなお米に神の力を見出し感謝していたのです。春に神様がやってきて米を実らせ秋に山に帰っていくのです。」貴重な話も聞くことができました。

午後は2グループに分かれ、一方は稲刈り、もう一方は脱穀(これは機械)。落穂拾いもしました。手塩にかけて育てたお米、たとえ自家用でも無駄にしたいくないという気持ちになって落穂を拾いました。

昔から農業は集落の人々が力を合わせて行って仕事。困ったときにはお互い助け合う。身をもって体験させていただいた一日でした。

一言で表すならば、滞在期間が短すぎる程、楽しかったということ。実を言うと、わたしは極度の虫嫌いな上に農業に関心を抱いたためしが無い。正直、農業を楽しめる自信はなかった。しかし、作業を体験して一日で印象が変わった。特に印象的だった作業は、イノシシによって荒らされた稲をひとつずつ鎌で刈ったこと。(これはぼっこわばの畑ではない)稲を機械で刈る今、鎌で刈るなんて、そうそう出来ることではないはずだ。「農作業を休みたいと思ったことは無いです。」よっちゃんさんはおっしゃっていた。楽しい作業もあるが、どれもきりが無い。わたしはこの言葉に感心してしまいました。

石田美桜

<11月8日(日) 八日目>

今日は日曜。わたしたちはお休みをいただき市内観光へ。雨の予報はどこへやらお日様が輝きだす。南阿蘇鉄道が昨日より運転を再開し通常ダイヤで行動できた。小泉八雲熊本旧居、夏目漱石内坪井邸見学。昼頃熊本城に着き、グループに分かれて自由行動。グループごとに相談していきたい場所に行き、食べたかったものを食べたようだ。わたしは熊本城をゆっくり見学した後一人ぶらぶら散歩。寂しくもあるが一人旅の気分でこれもまたよし。

観光などもし、熊本城も行きました。熊本城は初めてで、宇土櫓は敵が攻めてきたときのために色々と工夫がしてあるなあと驚くことばかりでした。それと階段が急すぎてきつかったです。熊本のとんこつラーメン美味しかったです!!

2週間という期間とても短く感じ、もう2週間いたい!!と思いました。それぐらい農業実習は楽しかったです。

高平未空

< 11月11日(水) 十日目 >

. . . 午後は、ドニーさんのバイオダイナミック農業の講義で習った500番の調剤作り。今朝取れたの牛糞を牛の角につめた。牛の糞は草の匂いがする。それ程臭くない。気にせずつめる生徒もいれば、ちょっと気持ち悪そうな表情をしている生徒も。つめたあとは土の中に入れ完了。毎年この時期しかできないので大変貴重な体験をすることができた。昨年完成した調剤を見せてもらった。手にとって匂いをかぐと甘い匂いがする。天空のエネルギーがつまっているという。不思議だ。



昼食後は毎日2時間、バイオダイナミック農業について、ドニーさんが講義をしてくださりました。密度の濃い話でしたが、バイオダイナミック農業はとて奥が深いので、7回の授業では物足りない程です。ちょっとでも聞き逃して話についていけなくなると、宿舎に帰ってからノートがまとめられなくなるので、うとうとしないためにコーヒーか紅茶を飲みながら授業を受けました。

牛の角の中に牛糞をつめて土の中に埋めるという、調剤づくりの過程を手伝わせていただきましたが、このような作業は普通の農場ではできない貴重な経験だったと思います。

池部百合子

< 11月12日(木) 十一日目 >

さあ作業最終日。朝食前に今日はよい仕事をしようと思いをかける。作業前に集合し、ドニーさんから「締めはさつまいもほり」。火曜日に蔓を取った畑のさつまいもの収穫だ。作業がつながっていて嬉しい。

最終日の今日、よっちゃんさんに生徒達について聞いてみた。「変りましたよ、2週目になってから仕事という感じになってきました。」と嬉しい一言、よい実習となつてよかった。

2週間、生活をともにしたおかげで、クラスの仲もいっきに深まった気がする。男女問わず、お互い助け、声を掛け合い、遊ぶことが出来、本当に楽しい2週間だった。農業にとどまらず、多くのことを学べ、良い思い出になったと思う。

石田美桜

ポッコワパは夜空がキレイで美しい自然にかこまれた農場でした。僕は毎日楽しく農業のお手伝いをし、講義を聞くことができました。毎日のご飯もとてもおいしかったです。さつまいも掘り、さといも掘り、トマトのハウスの片付け、キャベツの苗植え、牛にあげる草集め、調剤づくり、たくさんのことをしましたが、全て楽しく、農業がこんなにも楽しいことなんだと気付くことができました。

横浜に帰って来てみると、なんだかまたあの自然にかこまれたポッコワパに戻りたい気持ちになりました。

大西悠希

* 9年生 英語劇公演 *

～「The Seven Ravens and The Fantastical Tale of Finn MacCoul」を観て～

近頃の私は涙腺が緩み気味だ。卒業までのカウントダウンが始まったようで、子供たちの発表がある度にこれまでの思い出が重なるのだ。案の定、英語劇では、最初に舞台袖から聞こえてくる歌を聞いただけで熱いものがこみ上げてきた。

今回の英語劇は1年生の時から学んでいる英語の集大成である。演目が決まってから浜本先生はまず子供たちを都内にある「巨人のシチューハウス」というレストランに連れて行ってくれた。店主でアイルランド人のアランは身長2メートル(巨人の中では小柄な方らしい)、休日の日にわざわざ店を開けて子供たちを迎えてくれた。アイルランドでの勇敢な巨人戦士団フィーナのリーダー、フィンマクールにシチューをふるまっていたというアランの大きな手で作られた料理はどれも格別な味だったようだ。アイルランド民謡や楽器演奏も披露してくれたアランに子供たちも歌のプレゼントをしたということだ。

レストランでの食事が美味しく、楽しかったことは娘からも十分伝わってきたのだが、一向に家で練習している気配がない。予定を見れば漢字検定、例年より1か月遅い農業実習、卒プロの準備に、音楽の発表と9年生の2学期は本当に忙しい。農業実習から戻った翌週はエポックを英語劇に代えて集中稽古をしたが十分な時間が取れたわけではなかった。

さて当日、初めの「The Seven Ravens」では7羽のクラスが重い体を引きずるようにして飛び立っていった。いかにも思春期男子と苦笑する。7人の兄さんの食べ物をおいしそうに食べる妹役は食いしん坊のあの子にぴったりの役だった。2つ目の劇が始まるまで浜本先生も加わったバナナトリオの笛の演奏があった。その間に次々と舞台セットが用意されていく。2つ目の劇「The Fantastical Tale of Finn MacCoul」ではベナンドナーとフィンマクールの掛け合いがとても自然だった。かれらのユーモアのセンスに依るところが大きかったかもしれない。

英語についてはまだまだ練習が必要かもしれない。しかし全員が観客に伝える術が言葉だけではないことを熟知していた。その上一人一人の演技にゆとりや柔らかさを感じた。それは既に8年生劇という大きな舞台を経験したことからもくる自信かもしれない。でもそれ以上に農業実習の2週間、共に働き生活をしたことで、12人が1つになったこと、互いに相手の自我を尊重し信頼できるようになったことにあるのではないかと感じた。表に出ているときもそうでないときも、互いに補い合えることを知っている安心感で満たされていたのだと思う。

とはいえ卒業まであと何か月、なんて感傷に耽っているのは親だけかもしれない。子供たちの目は常に未来に開かれている。

最後に、短い期間で演出から小道具作り、選曲に演奏、そして英語の発音まで広範囲に及ぶ準備と指導をしてくださった浜本先生とご観覧くださった皆様に心より感謝申し上げます。

そして9年生よ、ありがとう。

(9年生保護者 石田のぞみ)

インフォメーション

児童募集

2016 年度転編入生向け入学説明会
を予定しています。

詳細はお問合せください。

連続講座「建築の歴史」

第 1、2 回は終了しました。

第 3 回

日時 2016 年 2 月 3 日 (水) 10:00~12:00

講師 岩橋亜希菜氏 (シュタイナー建築家)

場所 霧が丘校舎

参加費 2,000 円 (NPO 会員 1,500 円)

※ 終了後、ランチ会もあります

茶話会 / 校内見学会

学園の雰囲気や肌で感じていただける

この機会にどうぞお訪ねください。

<茶話会>

~教員を交えてざっくばらんに話しませんか

日時 2016 年 2 月 19 日 (金) 10:00~12:00

<校内見学会>

~教室など校舎内を教員・事務員がご案内

日時 2016 年 1 月 24 日 (日) 10:00~12:00

2 月 19 日 (金) 15:30~16:30

参加費：無料

場所：霧が丘校舎

学園にご興味・ご関心のある方は どなたでもお越
しくください。お子様連れも可です。

※お子様の上履きはご持参ください。

☆ 星の金貨より ☆

2/12,13「ガイアシンフォニー第八番&第三番/監督講演
会」(会場：アートフォーラムあざみ野) 前売券販売中。
『星の金貨』でご購入いただくとチケット代の 10 %が学園
に寄付されます。

2015 年もスクールショップ『星の金貨』をご利用くださ
いまして、ありがとうございました。
新しい年もどうぞよろしくお願いたします。

お問い合わせ

e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ

http://hosinokinka.blog100.fc2.com/



「野ばら」ディスカウントキャンペーン

<2015 年 11 月 1 日~2016 年 1 月 31 日まで>

学園の紀要冊子「野ばら」は 10 年目を迎え、新装いたしました。

新装 2 冊目となる 20 号発刊にあたり、最新号 20 号 (または 19 号) と
同時購入に限り、バックナンバー (1~18 号) を半額にて販売いたします。
是非この機会にお買い求め下さい。

・新装『野ばら』20 号 600 円

・バックナンバー 1~18 号

19 号・20 号と同時に買うと 50 % OFF 1 冊 200 円 (何冊でも)

購入のお申し込み、お問い合わせは事務局まで

* 学園 HP から購入できます *

NPO 会員・NL メンバー案内

正会員・賛助会員：12,000 円

ニューズレターメンバー：2,000 円

継続登録、2015 年度新規登録、絶賛募集中です。

* 詳細は事務局へお問い合わせください *

HP 内「がくえんにっし」更新中!

横浜シュタイナー学園の日々の様子がわかる「がくえんにっし」を HP 内で
掲載しています。そちらもぜひご覧ください。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替： 00260-0-130702

加入者名：特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行：店番 029 支店名 029 店 (せのきゆう 店) 当座 013702

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第 87 号

2015 年 12 月 15 日発行

編集： 広報の会

発行： NPO 法人 横浜シュタイナー学園

https://yokohama-steiner.jp

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘 3 丁目 1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※ 掲載内容の無断転載をお断りします